

- 1 対 象
- 2 日 時
- 3 場 所 第4学年1組 教室
- 4 単元名 「ウナギのなぞを追って」
- 5 単元について

教材観

身近な食材であるウナギはいったいどこで生まれるのかという研究の「報告文」にあたる教材になる。子どもたちもよく知っている動物の生態に対する興味や、努力と思考を重ね真実に迫る研究者の対する関心など、子どもたちの目の付け所により話の読み方や注目する部分に変化する文章になっており、一人一人の感じ方の違いに気が付けるよう「興味を持ったところを中心に紹介する」という活動目標が設定されている。そのために身につけたい力として「文章を要約する力」があげられる。多様な読み方ができる文章を、自分の興味を持ったところや感心したところを軸にしながら、必要な個所を読み取っていく力を養う。

4年生最後の説明文にあたる本教材では、これまでの学習を生かすことが求められる。「動いて、考えて、また動く」では事実と筆者の考えを読み分け、段落同士の関係を考えて。本教材でも、研究過程で明らかになる事実と、筆者の考察が交互に書かれており、読み取ることが大切である。また、「アップとルーズで伝える」では写真と文章を対応させて読むことを学んだ。「ウナギのなぞを追って」では図や表と対応させることが理解につながる。文章とどの図がつながるのかを確認しながら読む必要がある。

児童観

本学級の児童は課題に対して前向きに取り組める児童が多く、これまで行ってきたリーフレット作りや新聞づくりなどは、多くの児童が最後までやりきることができている。また話し合い活動についても抵抗感が少なく、ペア、グループの活動には慣れている。一方で、国語科に対して苦手意識を持つ児童が少なからずおり、特に文章を書くことについては時間がかかることが多い。学力テストでも漢字や言葉に対する知識で間違えていたり、文章で答える問題では白紙の児童もいたりした。苦手を意識して自主学習に取り組むなど、改善しようとする前向きな姿勢も見られる。

指導観

「興味を持ったところを中心に要約する」という課題は、「興味を持つ」と「要約する」の二つに分けることができる。まず、「興味を持つ」ことが難しい理由に「自分との関りが薄い」、「興味が言語化できない」の二つがあると考えられる。前者については導入部分で写真やICTを用い、子どもからもウナギについて疑問が出てくるような導入にしたい。また、他学年に紹介する、という目標を設定することでより主体的な活動を促す。後者についてはグループ活動を通して「すごい」と思ったところや「面白い」と思ったところをまとめていく過程で適切な表現を考えさせる。

「要約する」ことについては「要約の軸」（話題＝興味を持ったところ）を定めることと、「必要な文章を抜き出す」ことが課題として挙げられる。本単元ではKJ法でより多くの着眼点を見つけさせ、くま手チャートを使い、各段落から必要な表現を考えさせる。

また、本教材を通して科学読み物に対する興味を広げるため、並行読書を行う。ウナギのように遠く離れた場所で産卵をする魚や、予想と実験を繰り返す研究者の視点を楽しめる作品を読み、要約することで学習内容の活用を図る。

- 6 単元目標

事実と考察の関係を押さえて読み、自分が興味を持ったところ、感心したところを中心に、文章を要約したり引用したりして紹介することができる。

7 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
調査によって明らかになる事実と、考察とで構成された報告分に興味を持ち、進んで読もうとしている。	目的によって「大事なこと」が違うことを理解している。	観察・実験・調査などの記録や報告をまとめるときに使う表現について理解している。

8 単元指導計画

次	時	指導内容	学習活動	指導上の留意点 ●思考力、判断力、表現力等の育成のための手立て	評価規準 (評価の観点)
第一次	1	初発の感想を書く 課題設定をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・「初めて知ったこと」、「驚いたこと」、「すごいと思ったこと」を中心に感想を書かせる ・科学読み物を読んで要約し、紹介カードを作ろうという学習課題を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・難語の確認をする ・それぞれの感想が違うことを確認し、「3年生にすごいと思ったところを紹介する」という課題を設定する 	〔関〕興味をもったところを中心に要約して紹介する活動に意欲を持っている（観察）
	2	関心を持ったところを出し合い、要約のテーマを決める	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェビングを用いて「すごい」と思うところを出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・似ている内容で仲間分けし、まとまりごとにタイトルをつけることで要約する内容を明確にする。 	〔読〕教材文から興味を持った文を抜き出せている（ワークシート）
第二次	3	研究年表を作る	<ul style="list-style-type: none"> 「時間を表す言葉」に注目し、研究の大まかな流れをとらえる。 ・文末表現に注目し、事実と筆者の考えを区別する。 	本文を筆者の行動の時系列に沿って並び替えさせる活動を行う。事実と筆者の考えを分けることを指導する。	〔読〕段落相互の関係に気を付けて読み、「初め」、「中」、「終わり」の構成をとらえて内容を正確につかんでいる（観察）

第二次	4	各段落から要約のための文章を抜き出す。	・自分のすごいと思ったところに沿って、各段落から必要な文章を抜き出させる。	前時のワークシートを参考に必要に応じて文章を変える。	[読] 興味の中心によって「大事なこと」が違うことを理解している（ワークシート）
	5	「ウナギのなぞをおって」を要約した文章を書く。	すごいと思った個所についてポスターを書く。		[読] 興味の中心に沿って、言葉を選び要約する。（ノート）
第三次	6 (本時) ・7	要約する上で大切な文章を探す文章を要約して紹介カードを作る。	・並行読書の作品からすごいと思ったところについての文章を抜き出す。	すごいと思ったことをウェビングとくま手法で明確にさせ、本文を要約する際の指標とさせる。	[読] 必要な情報を選び出し、要約している（紹介文）
	8	紹介カードを交流する。	・ポスターと併せて要約した文章を発表し、感想を伝え合う。	事実と意見の違いを発表でも意識させる。	[言] 観察・実験・調査などの記録や報告をまとめるときに使う文末表現を理解している。

単元の成果物

	A	B	C
要約	自分の伝えたいところを中心に、段落の中にある言葉を使って書ける	段落の中にある中心文を抜き出し、文に合う形に直して書ける	段落の中にある言葉を引用している
事実と意見	本文から読み取った事実と、自分の意見を、文末表現を使い分けて書ける。	本文から読み取った事実と、自分の意見を分けて書ける	本文から読み取った事実が書ける。

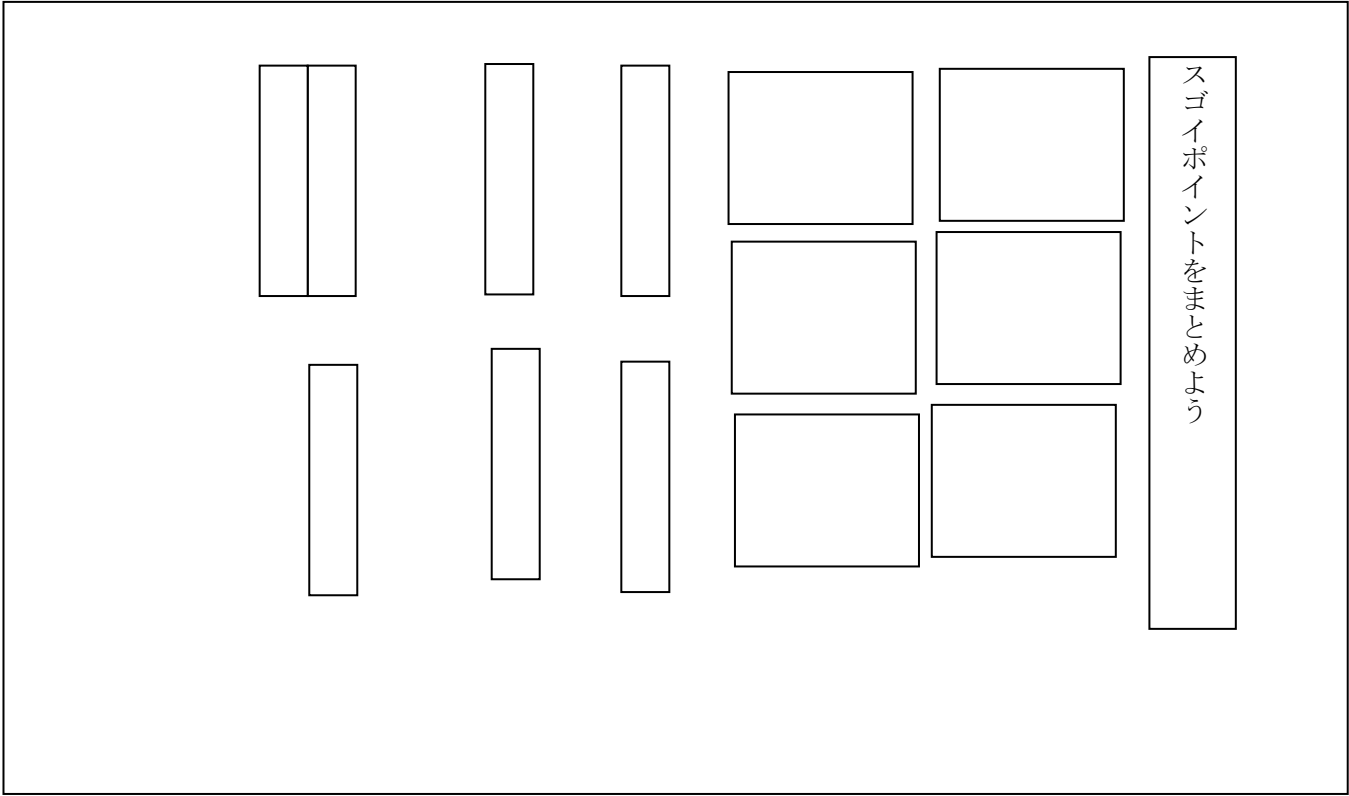
9 本時の目標

○興味を中心に沿って、言葉を選び要約する。

10 本時の展開(2/8)

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具等	評価 (評価観点) <評価方法>
導入	出会いをしかける めあてをつかませる 5	一斉	前時の感想を紹介する 音読	すごいと思う部分が人によって異なることを確認する。	科学読み物	
			スゴイポイントを見つけよう			
展開	一人で挑戦 5	個人	すごい、と思うポイントをノートにまとめる			努力を要する状況への手立て
	仲間と研究 10	グループ	科学読み物のすごいポイントをウェビングでまとめる	3人1グループを組み、それぞれの意見を出し合う 途中、ほかのグループを見に行く時間を設ける	付箋 ワークシート	段落ごとに分けた文章を渡し、必要な文章を切り取らせる。
		グループ	ウェビングで出た意見を仲間分けし、タイトルをつける。	・出てきた意見を仲間分けし、それぞれに小タイトルをつけさせる	ホワイトボード	十分満足できると判断される状況
	交流でさらに深める 10	全体	それぞれのグループで出た意見を黒板でまとめる	・似ている意見は、まとめて掲示する。	短冊	興味を中心に沿って、言葉を選び要約している。
	自分の言葉でまとめる	個人	自分が一番面白いと思ったタイトルを決める			
まとめ	学びを振り返らせる		自分が決めたタイトルをもとに感想を書く			

1 1 板書計画



1 2 座席表

前

